中村俊定文庫
文庫 18
60

弁説集題目録

秋部

初秋　一義尓　七夕
秋柳　武蔵　牛頭鬼踊
相撲　文月　霜
萩　萩　篠
女郎花　蘭　義人等

慶應義塾図書館

秋草　宏　冬鳥
鶉　康　秋田
月　名月　厚
碁　重陽　菊　冬菜
冬木取葉　取葉　紅葉樹
芋　木實　雜秋

宮内省図書寮

弁説集巻第三

初秋

来の秋金はきさと立あたり　法元

こなの月乃輪をこへくるゝと数の秋　玄頼

稲も風もまこさはいらね　初秋ハ　十字　良元

風はさこんはくめるる　初秋ハ　良三

風穴や地の底まても今数の秋　一茶

白雲の亮よりそたれ秋の風　正忍

夏をさまり秋刑宮やかそりと者　良保

陵定藏

宮内省図書寮文庫

秋立てあるの時ちれ市の場　永保
秋来ると風やちらすき篠の子　同

一条

舟つきハ一条ちらるる河の波　十巻　永元
一条の舟の舟やあれうこ　玄賀
舟さひてちるあもとの江の一条の　宗次
梶原やれは一条の舟を眺　惟素
一条のそあきなひ舟の米柳　盛栄
ちるとあるは風やかりそめの張条　永三

一条舟ハいそくすれ未のそ一条　永保
一条やこれ皇帝れくさ舟　同
ちんそ為王の桐も一条舟　同
一よろ条万里つるや舟れ　同

七夕

引あひれ衣やあさかれ花の蓋　玄賀
おり姫の引ちるハいとやをたなる　同
女男くこ女男かれ二つ引　十巻　永元
竹の糸ハ線て冬や星琴の　一宝

文安
正業
仗應
寛盛
泰永
重安
信慶
和
改元

たなばたや海七夕はあれちきりぬ
金鶏の日や七夕のわかれ鳥
七夕やあふハ別れのもやれ衾
かぢれ木をかこれやしたの花
あるうなゐ織女やこ宵めぐり
七日かるあ雨の法師の女男川
恋をあれ星やあ逢たりあふたり
牽牛やちきわも年れ玉の年
年こ今宵たき物姫や新松

正春
重林
紹宇
如信
忠保
一雪
寛盛
正業
良保

二星ハ分ふあひおい乃まつり
織女れ布ハあふ和れそれさ
牽牛の恋乃実法や天乃川
天れ川漢れこ星のあよ
布を織おとひし女うめ七夕
別ハ雨や仮目牛おたなる
天れ河の田敷れ糸ハもめん
織れハ恋の庭うひ続う女七夕
白ぬのハそと姫う女七夕

やそんらくにあふハぎせいのやかるゝ　永保
祈ひの糸よりとそれ橋やあやひめ　同
さゝ〜たるふんとゝかるや男七夕　同

秋柳

あきかぜそたゝぬこさつゝ柳髪　玄賀
秋風よおとろかれぬゝ柳ゝ　氏重
ちりぬ世や捨る柳のゝかるゝち　安嘉
ちやゝ〜ろや見る川柳　慶切
蛇柳八黄泉玉ゝあきのいろ　要盛

ちる花奥の月ゝの流よ〜柳　播州　尚昌
さひ鮎やかゝそ〜おとす川柳　永保

玉祭　付施餓鬼

すゝ掛ゝき屋敷やかゝ〜ゝ〜ゝ　長堅
蓮ゝ葉もまつゝるゝのゝてなゝ　永元
ちゝすゝさゝ立る花瓶やせかゝちゝ　泰房
せゝきにハたつるゝ白ちゝ〜ゝさゝ　玄賀
ゝもゝハかくゝゝおとゝさゝてゝ　備中　正孝
ゝ〜ゝ白やゝあゝせゝさ　梅本

たての山もかすみわこえぬやまのかす　　永保
むらくもはうさなるせゝせりき　　同

踊

婦川よりとハ来折り去仇踊　　忠保
せけんよ躍とそややくそ所　　安重
こをも閑よおそれ肩さ一鯖世界　　永保

相撲

名れうそたかつたうと見よせされ撲　　玄賀
はれ前にて鼻をけいたや負れ撲　　清房

おやまちよくそ寝えやすまれ　　交友
石原へなくるをそまふやめえんれ　　家泉
もてかへせをエ野れ用すまへ　　忠保
負れうとかむうれ撲やいうさまさ　　正房
よえしかくやれてなけうされ撲すき　　友世
おうまエへうよ家たるすまふれ　　素亂
そうとをすれ撲よれやうれ弦　　正葉
そつて行ちたりあたまれはれ撲　　交友
おれたのれみそれやいなりけれ撲　　永保

あ車れわれはなりたるあ撲れ　永保
といなけやひさのなかるくあ撲れ　同

文月

文せんをひらいてみるやゝ文月の　玄賀
猶屋てとこよのなかるやゝ月の　同
反れなるてもゝ〻ゝ文月の　正業
かくちわうさ玄紙の文月の　三治
文月の袖や貫送れ所えもの　永保
え角きてみるハ毛情りお文月　同

ゆびさすや仏れ者たゝ文月の　同

雪

なるとなるて栗れなるこや雪れ海　寿治
をのつゝ法本そみを本雪れ海　利之
雪の海うゝすおゝ行時山　永保
雪雪雪をゝく本この根きよゝけ遠　同
雪
あ内ゝさゝ手礙馭駄廬仍し雪れ海　同
子を雪の胞や雪乃の淡海　同

萩

小野は焼くなり山し落り萩の葉　正業
吹風のはらふ間や萩乃ちる　信慶
風よりも葉なへてや萩は中風秀　玄賀
芦の風やおなじ人わた間萩は　光永
高やとす彩を見れ萩や光景　良保
秋光れとおきれと風やところ　同

萩

ふれいかといたんやそきれ見れ　玄賀
ぬすき彩ハ人高人乃小萩りな　元重

萩乃花のたかをいそ小豆小　宗悦
さりえ見よ散をハたれもなこそ萩　永吉
花をふむまゝをそきれ袖も小　良保
なかの小萩よ高やちいん高　同
ぬす人のひまをさ守れ花の番　同
竟宴入
芝よ以風や障屏尋のち萩原　同

落

われちハんかそ〳〵〳〵系落　玄賀
やふれ内よりもやけてとち落　元元

をひ〳〵よいたつハ胡ゞの尾花哉　快心
袖と〳〵すゑとゝ山ゝ尾花哉　正辰
ひゝたく八葱の袖やゆ和きあけ　友世
小ゑ木よ芋ハまゝすかれ落哉　永保

女郎花

見てのみやちきるゝ女郎花形さゝれ　玄賀
垂蕗の湿地やふるき女郎花　氏重
たやすかるゝを思ひてこゝへし女郎花　十宇　永元
偽てゆるゝ所白似菩薩女郎花　永保

蘭

蜘乃巣やもちれるゝさゝ敷えの面　元重
花をふむや日ゑさしこむ板廊　改言
そゝひこゝとてゝんまんたるやふちえの面　寛盛
ゝゝこゝ花鮑奥ゝ様芝蘭宝　永保
花見るハ武陵の宮の若えま　同

美人草

強ゝもうゝ見たきハ美人草哉　玄賀
大江山よさくや小式部美人草　ゆ

こまゝこやめてゝ名ばかる美人相　一正ず
国の代のやりんや化して美人草　一茶
倚寄して寄よたへたる美人草　文政
今は世やゆる家朝の美人草　同
亜嘉のおよは姫や美人草　同

秋草

そらことゝいふ物ゝあるのやうの林
こゝ宮ゆとゝひてとるやすもひ草　寛八
草も木も秋迄そたてたる乱草　正岩

露清一名やれ打数草　永改
あたゝめてに入とゝ酒やすいろう　月村　左近
秋風ようゝ吹るゝすれ菜武者　文政
紋なれや梶葉よ生る矢筈草　文政
花のすきあむちさきて拾れ　同

出

紙なゝて高るゝやひけをまゝ　寛賀
亜嘉をなめ八法やこのすき　同
たゝ名をかく張陳一番つ法　基春

松風をとろかちやうちんちろりかな　紀子

日のあるはまゐしるかはぢかな　元重

さゝぬ〻の根よりくるるれば　永保

らく事をするや野ちるの葉法　同

秋もとみこまれもやゝ神楽宮　同

夕月

酒のかんのひよろ〳〵たきの　西久

松なれの鳴音きうるや四十蓍　寛威

かこハ家よりもちく杖ちく四方　永保

鶉

今ふの色いよ〳〵ひろれ鶉かな　盤秋

うつらよハ床をふ〻ぬの懐紙かな　一雪

鳴声の回ハくなるうつらなる　播州宣秋

海苔乃まひの島やうちうつ　永保

庵

素こひてくるや庵まれかちたる　玄賀

鶯くとをくをゝ切るや庵の春　正孝

書き〻一男鹿や角をおし〻文　要威。
奪ふて鹿射る人や嘆くらん　重勝
鹿の乃と忘むるや小田の鳴子縄　文友
男鹿もやなく〻妻を恋ぶ山　一茶
鹿も恋よ人目の関を猟師小　正業
のと留の音よのこ鳴〻一男鹿小　信廣
一の谷や切〻かぶ角も坂おろし　要威
淡路の音よ女鹿もを〻鹿小　文友
李文も妻こふ鹿乃元音うな　一茶

ぶち詰う神の田あらす秋の鹿　元保
ぶくさぶの尖ようをおちわをおいこそ　同
風よ吹ら孔雀やゆる鹿の声　同
神代
金の皮いろ色そを名鹿小　同

秋田

鹿神のつゆくむハあき此鹿小　文賀
夫つよりかわおさむるや百姓　同
ちゝむ稲を刈くる縄やいろ弟　永政
雄此田乃かわよむまるくいなこ小　好宗

たゝら田のうしはいの神社 三喜
夏の代の久しかる田社もなし 宗悦
思ひきて猶守かくなる傍郭公 成列 義慶
初ゝ夏社田地をまもる傍郭公 正葉
鳴子縄ハなどすきかるよをくてゆ 是色

夕されゝ門田てらすや稲妻 一童
教のすく社をゝハふむとろ田ゆ 一雪
やすらかゝ云ゝきてかるそて田かな 貞保

百姓社さいわ社乃ちんや田ゆ掛 同
人乃田をかるひゝ事よもきてゆ 同
百姓よあてたゝうるやむらすめ 同
素戔の鳴と穂よ出て金ゝ稲田姫 同
よゝき稲ハ穂日社命乃社ゆ 同

月

猿なゝて月社輪をひゝうもくまゆ 林
泣ゝて
月をのせてきゝむもなゝ角車 古元

竹垣の月やんれ月のかけ法師　宣教
書写のかくらいそしの月乃こすの月　正元
先年の月雪れなり　雲乃原　盛栄
松風そちや月れ舟のあひを　長任
さすやたく日本一なり　月乃かさ　時應
童へまて見るもやこま高くれの月　重友
つくしあつてもやなやまれ月の雲　永三
ちをふるよあまさつさ海や月れ　重任
雲れ心八天子の月乃こやこ　忠定

月新れさ一入萩や行末　重俊
いれておけい亜孫八見へぬの月　浄法
登れ月へひつあてよ月のち　賀教
月八為て言なり川八見る　性観
おる月やうちとい法れ山　一重
山は赤見るや初り月　長
月れ為とる法ゝ雲れ　正辰
それた新のあはすまふ三千月　宗悦
入一月志のふる幸れ　友友

空や満虹の帆かくる月の舟　仙宝

月ハ清ク新なさへきるやうに戸に　訓蒙

見えそうすや笠ゝ元山に月の影　信廣

月よ曇なくハそれさへ元の月　一茶

松浦ゝや月もさよ姫のお点指　泰舟

月代もあかく見へたる天ゝ雨に　貴平

雲に浪よ月やそうゝ法見小舟　月元

月に月かみとり月柏橋よ出ゝ来　元

胸に月のむら雲なれや歌乱恋乱　基春

月代や元旦ゝ屠る諸群星　元紘

月代乃あかるハよ月に雲に　春亮

月に詩の雲ゝ一に丸の月そく字　正孝

月ハ嵐もちあれハ席そ竹の中　正業

星を石と打見月や蓑げのなり　丸定

月に舟や蓑かゝ月ようのむせと云　同

神泉山乃月やさなかゝれ正神　重晴

あれとゝハ垂物人ゝそあれ月　同

海苔よ月新さくもお物墓　貫威

はのハハ月代よりもひやめかし　元重
月は舟もせこうハとめよ舟木山　月

華厳

おゐるや花教海空月は舟　叡光寿

阿含

内眼や但空を見る秋の月　月

方等

十方や等身てらす空の月　月

般若

のかるなら月は兜よ般若坂　月

法花

四日月は文となへつゝ新法師　月

涅槃

流法も月こてよたゝ法の座　月

やせもく

月ちは新ハいるなり矢竹乃里　玄賀

望四よて

泳池もめせ月は舟さゝれ壁　月

月新やあるとはなれる者の庭　素賀
月ゆやこれてひかる草の露　同
忘おもふ月乃植やいけの水　同
花はいとん月よたゝせる嵐かな　孫
月よへハ幸きくる家門のなし　同
西へ行月ハ掛錫杖去かか　同
湖のゝやくまとゝ不動月はせん　同
仏なれとん如もひゝれやの月　同
あゝ行のあゝとゝくる湖の月　同

稲なれやのゝ人ゝへは月乃毎　同
世月ハ世界はれ門はをしてれ　同

竟豪集入山井はれかなり

月はかゝ見門伯仏の雲乃上　同
月ハこゝ見あす新旨の富士山　同
大海の月や後はれ世の仏乃月　同
源氏ゝ法ゝ男月宮殿のゝはれかなし　同
月ひゝるなの月きゝよゝす南瞻　同
月を一夜をや月よあゝれゝへつゝ　同

神代　天地乃源ふ陰や高月　長保
同　お月讀雲ぬけてや天の月　同
同　かゞ屋矢の立や天命の月ぬき　同

名月

さのてめくゝ屋あゝ百万うこゝもち月　貞室
咒なゝハ名やまんゆゝ月ぬき　李吟
なゝ屋あて神も今宵八月見ぬ　慕帰
墨なゝ月や名よあゝ雲天　寿命
名月ハ子和をまゝめゝ老ぬ　素顔

我浦も今宵あゝ月見ぬ　宗次
後ゝ位やひゝくゝぬるゝ月　正春
名ぬ月や仏ぬ好しゝもゝ　一嘉
よゝくゝあよゝゝの月ゝ雲ぬ常　上宮
十五和や月ぬ拙のゝ月の昼　泰舟
月ぬ仏天上をする月見なゝ　永学
名月や見一拍乃る野山　快應
讀哥ぬゝたゝちたる月見ぬ　正辰
今宵面和名代なゝ月ぬ　氏重

昭月より引ハ名にあるの詞むへ　長保

養子おや安なき発ナ子もち月　同

名月よ月ふるやや天れやすく分　同

五山るをくるさに嵐山に入

五山海をりへる三五の月見れ　同

かくへまうり月見よ白雲て

けたひハ月名ナ革や白山　同

よくるハ山のいくきれ月見れ　同

をんなるやさんこたすむ白月夜　同

右之句をそ竟高集ニ入

せいのせいくいをいつれ今日ハ月　同

かくさめる百れ幸八月見れ　同

句乃今宵知徹の月見出れ　同

十三夜

まめくふハえとのこれなる月見れ　紀ナ

栗れ木のこよのひの月れ植の木　十宝　元元

らなひ子の十二三夜れ月れ貧　尚安

まめれ乃こ孫ふやや月れ夜白苔　同

奇よりてなくさまあくふ月見　重吉
鳩胸やまあ名月の月の羽袋　政舎
名月よいとなまめ嶮の男山　長住
雲の名月をよく見なら十三夜　光永
まあ木とこかるや月見よ菊白菊　玄賀
四分度の一度二度の月　永保
かけさくふくひるや月くる月　同
嵐山の夜の月見る人の仏山　同
麦畑　物いまいの二度見る月の横笛　同

屠

高野乃法師迷なくみ一門屠　未及
亀屠やたれうちかぶ屠をたふて　元元
かりてうやたをもと屠の料理人　同
屠食の波るや天の河せふを　宗久
ふちわよりて折や鉄砲祝ひる　意栄
雲水のすこにこ屠字の　貴蔵
百姓や名も山田のもちち屠　嘉貞
雲よ汁ハ屠の料理やちぶてん　永保

月をもうてやすらる音ゐや層れ多　同
しで三途の川層なれや持傾頭　同

礎

折柴乃音やかくころかくころも　体南
尼もいかゐもうてるやあつときれ　玄賀
五所丸かるやうきわたれ薪折負我　章助
折柴乃音やこゑ塚　れ　正原
和を称すよ折やゐれたやこのこ　三喜
雷は大地をあてれさゆるか　量園

ちひれ衣を自拍子を折孫な　家治
折重ね絡もたくれ面かな　信慶
さこゐもれ君れきれたやうちれの　良保
まくなて折やゐ多れ付こゐも　同
嫁の折あらひきわたやは面ゐれ　同

重陽　対菊

今日のれきたうよゑや菊草
はるやんちとなきはやうにあそれ
けるかくなん

まうすにはなるとこうれ菊の酒　秦兼
もすそなりて色香妙なりしぬる　玄賀
谷にをくる白波や小菊の仙人酒　同
さくら川ふすま岡や桑と耳毛茅　西久
六代の菊は弄もや六家集　一雪
さ世綿をあたらめさいよお菊酒　芝童
汁垣をまたわにもるや菊の淵　朝文
まんまるくゆる芝の菊はつかぶ　長任
李白なりけるは菊　紹仁子

うれしなるあの月天は刀を菊　宗次
百枝菊ハ宗さるるは時宗さるるは　卜宮
ぬれ蹈や鮎祝ふた菊は淵　西久
一汁九とも白乃菊酒小　器泉
花も細をとまむ祝なり　貫蔵
也乃すや九十九日乃百和菊　元保
三度敬さけやみたるは菊　同

寛文元年豊年なりしを
菊は宮乃中は粉よきを年は　同

むら紅とってまろねや百よ夢　貞保
はぶ紙やだいご柿もこちの里　同

色葉

秋うける地ぶやいろ葉れをちれ　性歓
白雨は雲ハ星かき乃色葉ぶ　重之
うすきまよ見ゆるいろはやすきら　貞保

名木百葉

秋は霜ふて石ちいろうむ梅百葉　重友
山姫のを枕なりん小白ぶ　十五年 貞元

楓よや垂は玉珠は露乃玉　春表
枝きまハくちわ数生ういてぶ　交友
東波なるの赤磯ま梅ふ菊百葉　正業
草を切く色やる百葉ふく立田山　貞保

百葉

いつれをも高き山と見んや百葉山　玄賀
みちはくてかかるる人やこれもこち　同
朱硯の百葉ちうはるいちく色　同
百葉見ま丸ちくろいやる雄山　貞三

材紅葉するやいろ恵の屏風坂　塵切
岩倉山ハくちなゝ深ゝうす紅葉　永設
月ゆゑなら山のもゝやゝ時雨　紀子
秋の日やあゝ行くれなゐ紅葉狩　一嵩
あの旗ゝ平家ゝ嶽の村もゝち　防列氏定
赤深ゆゑ紅葉見やゝ紫花語　正葉
紅葉する春日ゆゑ岩ゝ有ゝ童子　光平
面ゆゑ踏ハ時ゝうゝ紅葉狩　貴威
冊頂やゝ行るゆゑ林乃こい紅葉　永保

深抱ハ六条て見ぬもゝち名　月

紅葉鮒

おゝれるやまん丸ゝゆゑ紅葉鮒　紀子
川音ゆゑ時雨や深てもゝち名　紫淡
元ゝ和やせゝ時ゝ波乃紅葉鮒　是望
嵯峨康も山沢ゝとゝ見んもゝち鮒　一之
浪ちるや屋なせゝ時ゝる紅葉鮒　永保

芋

天狗たけ有ゝハゝて蔦に嵐竹　四人

こぬの面降てやそ音川嵐たけ　遠白
梅の香よ面さる松たけ白ひ　良保
嵐蕭　なくる久もやたゝこ　同
祇農もくさひらまてやなわすき　同

本賀

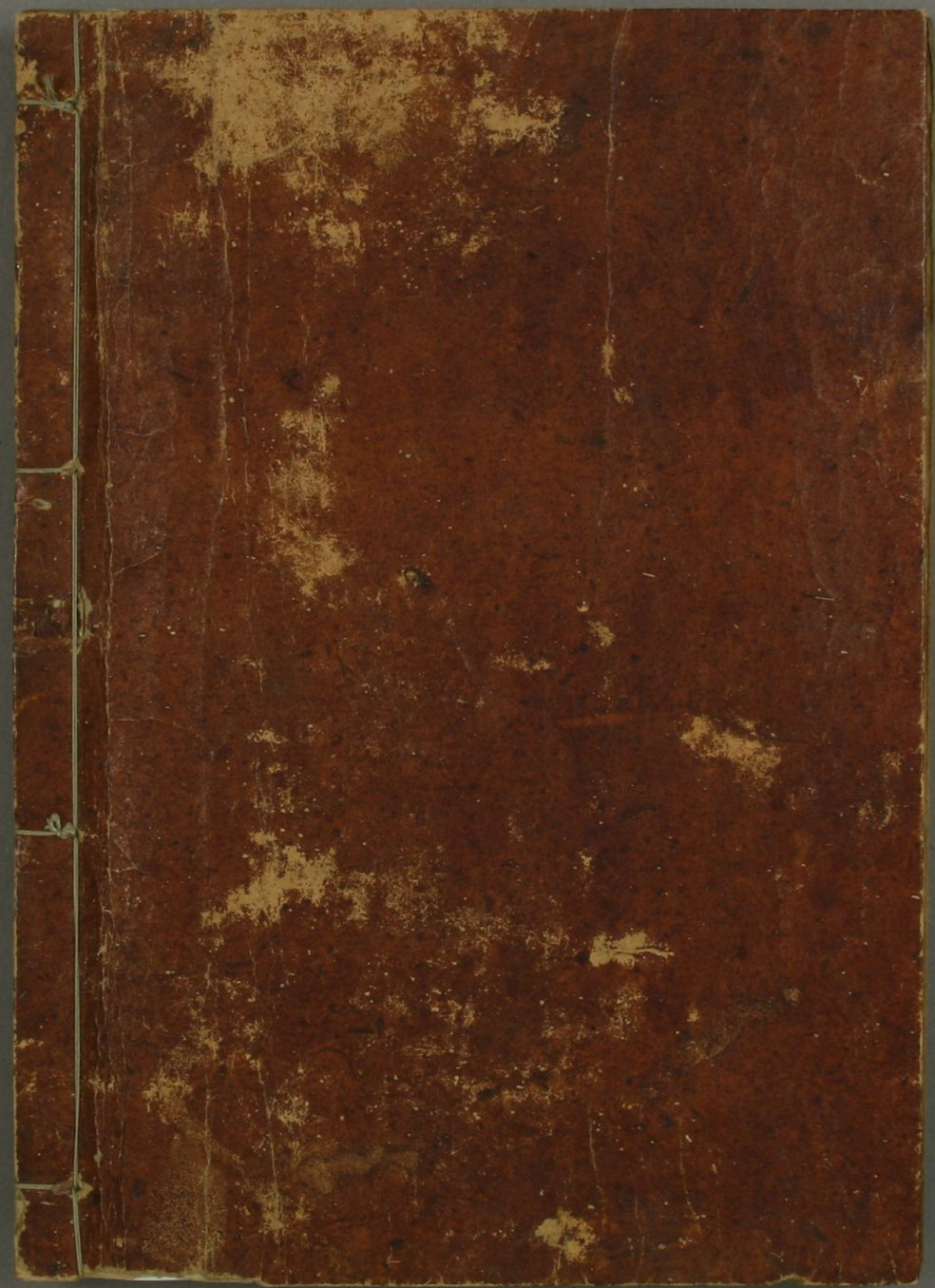
いゝ栗をいるゝ冬冊波いくさ　十重　元元
おとなんたきてやゝ高る姫くるこ　良三
紫式部いまいまを見てたわ嫁くるこ　一重
椎のこ代表二人れおくるゝ　良保

降面も柿しかるハちゆさゝな　行恵
しやうにや言を殺してあま松梅　西久
筆柿もちんなとなる者くゝ　家次
花は目を射て法くるやたん松梅　左門
指のさきてむ木るる木れとなつ　池家
木れ穴ハ反ぬ、ひそひめくるこ　泰舟
堀川れ出ぬかきに石を松れ　良保

雑秋

やいとおせとある暑さやれを　枝應

詩林のいけふ　なれや面のうを　永保

ひさうよ秋のくさめや　風あろ　同

秋なりぬわれやなむまさ花　同